

リリース・ノート Sybase® ETL 4.8

ドキュメント ID : DC01038-01-0480-01

改訂 : 2009 年 3 月

| トピック | ページ |
|--------------------------------------|-----|
| 1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス | 1 |
| 2. 製品の概要 | 2 |
| 3. このバージョンで変更された機能 | 3 |
| 3.1 ProcessQ は今後廃止されることになりました | 3 |
| 4. 特別なインストールの指示 | 3 |
| 5. 既知の問題 | 4 |
| 5.1 ETL サーバの問題 | 4 |
| 5.2 ETL コンポーネントの問題 | 9 |
| 5.3 国際化の問題 | 18 |
| 5.4 Sybase IQ 12.7 を持つ ETL の使用に関する問題 | 20 |
| 5.5 ETL 製品以外の問題 | 21 |
| 6. マニュアル情報と変更点 | 26 |
| 6.1 ETL Development、製品マニュアル、およびデモの表示 | 27 |
| 6.2 ユーザーズ・ガイド | 27 |
| 7. テクニカル・サポート | 28 |
| 8. その他の情報ソース | 28 |
| 8.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報 | 29 |
| 8.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス | 30 |

1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス

このリリース・ノートの最新バージョン (英語版) にはインターネットからアクセスできます。製品がリリースされた後で、製品またはマニュアルに関する重要な情報が追加されているかを確認するには、Sybase® Product Manuals Web サイトを使用してください。

❖ **Sybase Product Manual Web サイトのリリース・ノートにアクセスする**

- 1 Product Manuals (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にアクセスします。
- 2 製品と言語を選択し、[Go] をクリックします。
- 3 [Document Set] リストから、製品のバージョンを選択します。
- 4 [Release Bulletins] リンクを選択します。
- 5 マニュアルのリストから、使用しているプラットフォームのリリース・ノートへのリンクを選択します。PDF バージョンをダウンロードするか、オンライン・マニュアルを参照することができます。

2. 製品の概要

Sybase ETL 4.8 は、Sybase ETL Development および Sybase ETL サーバを含みます。ETL 4.8 のすべての機能が Sybase IQ 12.7 でサポートされているとは限りません。

表 1 では、ETL 4.8 が Sybase IQ 15.0 および Sybase IQ 12.7 と共に使用される際の機能や他の違いがリストされます。

表 1 : Sybase IQ 12.7 および 15.0 での ETL 4.8 の使用

| 違い | Sybase IQ 12.7 | Sybase IQ 15.0 |
|---|----------------|----------------|
| 機能： | | |
| • Sybase IQ クライアント側ロード・サポート | No | Yes |
| • 複数のライター・サポート | No | Yes |
| • IPv6 のサポート | No | Yes |
| プラットフォーム： | | |
| • Red Hat Enterprise Linux 4.0 on POWER (64 ビット) | Yes | No |
| • SuSE Linux Enterprise Server 9 on POWER (64 ビット) | Yes | No |
| 注意 Sybase ETL 4.8 がサポートする更新されたすべてのプラットフォームおよびオペレーティング・システムのバージョンの詳細については、『Sybase ETL 4.8 インストール・ガイド』の第 1 章の「システム稼働条件の確認」を参照してください。 | | |

3. このバージョンで変更された機能

Sybase ETL 4.8 の新機能と変更された機能の詳細については、『Sybase ETL 4.8 新機能ガイド』を参照してください。

3.1 ProcessQ は今後廃止されることになりました

ProcessQ は、Sybase ETL の以前のバージョンに付属されており、コマンド・ラインからのプロジェクトやジョブの実行に使用されています。

Sybase ETL 4.5 の ETL サーバ実行ファイル GridNode は、この機能を含むように強化されたため、ProcessQ は今後廃止されることになりました。ProcessQ は、下位互換の目的で Sybase ETL に付属することになりましたが、一部のオプションはサポートされていません。今後のすべてのリリースでは ProcessQ がサポートされないため、プロジェクトとジョブを実行する際は、ProcessQ の代わりに、GridNode を使用して既存のスクリプトを更新することを強くおすすめします。GridNode の詳細については、『Sybase ETL 4.8 新機能ガイド』の「ETL サーバのコマンド・ラインの機能強化」を参照してください。

次の ProcessQ パラメータは、サポートされなくなりました。

| パラメータ | 省略形 |
|---------------------------------|-------------------------------|
| --detachconsole | -DC |
| --id <i>mutual exclusion ID</i> | -I <i>mutual exclusion ID</i> |
| --kill_all <i>process names</i> | -KA <i>process names</i> |
| --serialize | -S |
| --timeout_lock <i>n</i> | -TL <i>n</i> |
| --windowstyle <i>n</i> | -W <i>n</i> |

4. 特別なインストールの指示

Sybase ETL 4.8 は、Sybase IQ リポジトリをサポートしません。ETL の以前のバージョンからの Sybase IQ リポジトリを使用している場合、Sybase IQ からの既存 ETL リポジトリを SQL Anywhere にマイグレートする必要があります。『Sybase ETL 4.8 インストール・ガイド』の「第 4 章 アップグレード」の「Sybase IQ から SQL Anywhere® へのリポジトリのマイグレート」を参照してください。

5. 既知の問題

この項では、Sybase ETL 4.8 の既知の問題と対処方法について説明します。それぞれの問題には CR (Change Request) 番号が付けられています。この番号は、ETL 問題に関して Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタにお問い合わせいただく場合にお知らせください。

5.1 ETL サーバの問題

この項では、Sybase ETL サーバの既知の問題について説明します。

5.1.1 50 以上のプロジェクトのジョブを実行すると、ETL サーバがクラッシュする

[CR #564661] Sybase ETL サーバは、50 以上のプロジェクトのジョブを実行すると、過度のメモリ消費のためにクラッシュします。

対処方法：過度のメモリ消費を制限するには、次の手順を実行します。

- 1 [Sybase ETL Development] ウィンドウから [File] - [Preferences] を選択します。
- 2 [Performance Logging] を選択し、レベルを「0」に設定します。

5.1.2 OCS を使用して SQL Anywhere 11 データベースへのリポジトリ接続を作成すると失敗する

[CR #563581] SQL Anywhere 11 データベースの最新 EBF を使用し、OCS のコネクティビティを使用して、このデータベースにリポジトリ接続を作成すると、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：ETL 4.8 に同梱されている SQL Anywhere 11 のバージョンをインストールするか、ODBC コネクティビティを持つ SQL Anywhere 11 にアクセスします。

5.1.3 SySAM ライセンスの有効期限切れ警告メッセージが英語でのみ表示される

[CR #557213] HP-UX を除く UNIX のすべてのプラットフォームでは、Sybase ソフトウェア資産管理 (SySAM) ライセンス有効期限切れ警告メッセージは、インストールの際に選択した言語にかかわらず、英語でのみ表示されます。

対処方法：なし

5.1.4 ETL サーバによる HP-UX でのプロジェクトの実行に失敗する

[CR #556856] 特定の HP-UX 11v23 マシンでは、プロジェクトの実行が失敗する可能性があります。

対処方法：次のパッチをダウンロードして、インストールします。

| パッチ | 説明 |
|----------------------------------|---|
| <i>PHCO_34974 s700_800 11.23</i> | SAM 累積パッチ |
| <i>PHNE_33283 s700_800 11.23</i> | nettl(1M)、netfmt(1M)、および nettladm(1M) パッチ |
| <i>PHNE_34150 s700_800 11.23</i> | r-commands 累積メガ・パッチ |
| <i>PHNE_35770 s700_800 11.23</i> | telnet kernel、telnetd(1M)、telnet(1) パッチ |
| <i>PHNE_34698 s700_800 11.23</i> | ftpd(1M) および ftp(1) パッチ |

5.1.5 Solaris における getaddrinfo() の機能制限

[CR #556653] Solaris マシンで getaddrinfo() 機能を使用すると、ETL サーバがエラー・メッセージを表示します。

対処方法：#solaris_10u5(s10u5_07) パッチをダウンロードして、使用しているマシンにインストールします。

5.1.6 コマンド・ラインから起動したプロジェクトをモニタできない

[CR #553669] Web ベースのリモート・モニタリングは、コマンド・ラインから起動したプロジェクト実行のモニタに失敗します。ETL 4.8 では、コマンド・ラインから起動したジョブのみをモニタできます。

対処方法：簡単なジョブを作成し、モニタするプロジェクトを含めます。

5.1.7 Sun Solaris で ETL サーバの起動に失敗する

[CR #559206] インストールの際に [Install for all users] オプションを選択し、ホーム・ディレクトリを設定していない場合、ETL サーバによる Sun Solaris の起動は失敗します。

対処方法：なし

5.1.8 日本語または中国語で Sun Solaris に ETL サーバをインストールすると、エラー・メッセージが表示される

[CR #560004] Sun Solaris に ETL サーバをインストールする際、インストール言語として日本語または中国語を選択すると、次のようなエラー・メッセージが表示される可能性があります。

```
/usr/bin/bc and /usr/bin/dc files not found
```

対処方法：エラー・メッセージを無視します。

5.1.9 日本語で IBM AIX に ETL サーバをインストールすると、エラー・メッセージが表示される

[CR #560013] ETL サーバを IBM AIX にインストールする際に日本語を選択すると、ETL サーバが正常にインストールされたとしても、エラー・メッセージが表示される可能性があります。

対処方法：デフォルトの C 言語設定を使用します。

5.1.10 Windows 2008 でプロジェクトを印刷すると、間違ったファイル・パスが表示される

[CR #560347] Windows 2008 では、プロジェクトが XML として正常に印刷された後で、メッセージに間違ったファイル・パスが表示されます。

対処方法：インストール・ディレクトリの [reports] フォルダに移動し、ファイルを開いて表示します。

5.1.11 ローダ・コンポーネントのモニタに関する問題

[CR #555170] Web ブラウザを使用して、IQ Loader File via Load Table コンポーネントおよび IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを含むプロジェクトをモニタすると、進行ステータスの表示が不可能な場合があります。

対処方法：なし

5.1.12 大きなスクリプトのデバッグ中に JavaScript エディタのシステム・エラーが発生する

[CR #555171] JavaScript エンジン・ランタイムの最大サイズは、デフォルトで 5000000 バイトまたは 4.76MB です。デフォルトのサイズより大きいスクリプトをデバッグすると、メモリの問題が発生する可能性があります。

対処方法：[Default.ini] ファイルに JavaScript エンジンの最大メモリ・サイズを設定します。設定するには、次を実行します。

- インストール・フォルダの etc ディレクトリに移動し、テキスト・エディタを使用して [Default.ini] ファイルを開きます。
- [Scripting] セクションに、次を追加します。

```
Runtime Memory = <a new number for memory in bytes>
```

5.1.13 DBMS の予約キーワードをテーブル名として使用すると、エラーが表示される

[CR #554213] Sybase IQ テーブルのテーブル名として DBMS の予約キーワードを使用する場合、SQL クエリの実行時にエラーが発生する可能性があります。

対処方法：DBMS の予約キーワードのテーブル名には、角カッコを使用します。

5.1.14 GridNode -nl コマンドが、HP-UX で正常に実行されない

[CR #554421] -nl コマンド・ライン・パラメータは、HP-UX IA 64 ビットのマシンですべてのピア・ノードのリストを表示しません。

対処方法：ローカルの GridNodes を停止し、GridNode.sh -nl コマンドを再度実行して、ピア・ノードを表示します。

5.1.15 ETL を Sybase IQ と同じディレクトリにインストールできない

[CR #551068] Sybase ETL および Sybase IQ を同じディレクトリにインストールすると、インストールが失敗します。Sybase IQ によってインストール中にアンインストール・ディレクトリが作成され、Sybase ETL によって同じ名前で作成されるため、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

対処方法：ETL を、Sybase IQ と同じディレクトリにインストールしないでください。

5.1.16 IBM AIX 6.1 での uGuid の機能制限

[CR #548367] IBM AIX 6.1 では、base64 パラメータで uGuid 機能の使用を試行すると、ETL サーバによってエラーが生成されます。

対処方法：なし

5.1.17 接続制限を超えると、Sybase IQ への接続がロックする

[CR #496226] プロジェクトおよびジョブの実行後に、ETL から Sybase IQ への複数の接続がオープンなままである場合、オープンな接続が Sybase IQ の接続制限を超えると、Sybase IQ への接続がロックされる可能性があります。ETL がカラム記述を取得できず、ETL がデータベースの接続制限を超え、ETL が Sybase IQ に接続できないことを示すエラー・メッセージを受け取ります。

対処方法：Sybase IQ の接続制限を増やします。『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第 12 章 ユーザ ID とパーミッションの管理」の「IQ のユーザ・アカウントと接続の管理」を参照してください。

5.1.18 異なるディレクトリへの再インストール後にデモ・リポジトリにアクセスできない

[CR #531201] Sybase ETL Development の別のコピーを、元のインストール・ディレクトリとは異なるディレクトリにインストールする場合、デモ・リポジトリにアクセスすると、問題が発生します。Sybase ETL Development の最初のインストールをアンインストールしても、レジストリのエントリは、新しいインストールによって上書きされず、元のまま残ります。

対処方法：次のいずれかの操作を行います。

- 使用した元のディレクトリと同じディレクトリにインストールします。
- 異なるディレクトリにインストールする場合は、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに問い合わせてください。

5.1.19 ETL の前のバージョンが実行されているときに ETL 4.8 を実行できない

[CR #535684] ETL 4.8 は、レジストリとリソースで競合が発生するため、ETL の以前のバージョンと同時に実行できません。ただし、Sybase ETL 4.1 または 4.2 が使用しているマシンにインストールされている場合、同じマシンに ETL 4.8 をインストールすると ETL 4.1 および 4.2 が起動されなくなります。

対処方法：ETL の以前のバージョンがインストールされているマシンに、ETL 4.8 をインストールしないでください。

5.1.20 ETL 4.2 リポジトリへのアクセス時にパスワードを再入力する

[CR #535864] ETL 4.8 以前の ETL バージョンで作成されたりポジトリにログインする際に、リポジトリ・ユーザ・パスワードを再入力する必要があります。

5.1.21 Windows Vista でスケジュール・ジョブの実行に失敗する

[CR #535937] Windows API の Scheduler API での変更のため、ETL Runtime Manager を使用して Windows Vista でスケジュールしたジョブおよびプロジェクトを実行できません。

対処方法 : ETL Runtime Manager を使用してジョブまたはプロジェクトをスケジュールし、Windows Vista タスク・スケジューラで [スケジュールに従う] や [ログオン時] などのタスクのトリガを追加します。 [スタートアップ時] トリガを選択することはできません。

5.1.22 Query Designer 出力が、カラム名を表示しない

[CR #549913] Query Designer では、Adaptive Server® Enterprise (ASE) または Microsoft SQL Server に接続されるテーブルのカラムに機能を適用してクエリを実行する場合、Content Browser にカラム名が表示されません。

対処方法 : 機能を使用するカラムにエイリアス名を追加します。

5.1.23 Sybase IQ でテンポラリ領域が十分でない場合、ETL サーバの応答が停止する

[CR #539896] Sybase IQ から大量のデータを転送するときに、送信元の Sybase IQ データベース・サーバのテンポラリ領域が十分でない場合、ETL サーバの応答が停止する可能性があります。

対処方法 : Sybase IQ サーバのテンポラリ領域を 1 GB 以上に増やします。

5.1.24 特定の Sybase IQ サーバに接続をキャッシングするサーバ名を使用する

[CR #540023] 同じサーバ名、データベース名、ポート番号を持つ複数の Sybase IQ サーバを使用している場合、ETL によって、ODBC を使用して特定の Sybase IQ サーバに接続できない場合があります。

対処方法 : ターゲット Sybase IQ サーバに接続をキャッシングするサーバ名を使用します。使用している ETL サーバの .odbc.ini ファイルで、DoBroadcast=DIRECT 通信パラメータを CommLinks 接続パラメータに追加します。

```
CommLinks=tcPIP (DoBroadCast=DIRECT;host=iq server;port=2638)
```

『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第 3 章 Sybase IQ 接続」の「迅速な接続のためのサーバ名キャッシュ」を参照してください。

5.2 ETL コンポーネントの問題

この項では、ETL コンポーネントの既知の問題について説明します。

5.2.1 ODBC ドライバがインストールされていない Linux および UNIX マシンで、マルチプレックスの実行が失敗する

[CR #560953] SQL Anywhere 11 または Sybase IQ 15 ODBC ドライバがインストールされていない UNIX または Linux マシンの [Use IQ Multiplex] オプションを選択すると、プロジェクトの実行に失敗します。

対処方法：SQL Anywhere 11 または Sybase IQ 15 ODBC ドライバをインストールします。

5.2.2 IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでの複数ライタの使用に関する問題

[CR #560036] 複数ライタを使用するには、ターゲット IQ データベースの `sp_iqtable` と `sp_iqcolumn` ストアド・プロシージャ特権での実行パーミッション、および `create table` と `execute sp_iqstatistics` での適切なパーミッションが必要です。

対処方法：Sybase Central™ を使用して必要なパーミッションを設定します。

- 1 Sybase Central で、DBA ユーザまたは `dbo` ロールのメンバとして Sybase IQ 15.0 サーバに接続します。
- 2 [Users & Groups] を展開し、パーミッションを設定するユーザまたはグループを選択します。
- 3 ユーザまたはグループを右クリックし、[Properties] を選択します。
- 4 [Permissions] タブを選択し、[Procedures & Functions] を選択して、使用可能なパーミッションのリストを表示します。
- 5 `sp_iqtable` および `sp_iqcolumn` を選択して、対応する Execute カラムをクリックし、IQ データベースのストアド・プロシージャを実行するユーザ・パーミッションを与えます。
- 6 [OK] をクリックして設定を保存します。

5.2.3 DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントは、データを SuSE マシンにロードすることができない

[CR #560814] SuSE では、ODBC 環境が適切に設定されていない場合、DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントはデータのロードに失敗します。プロジェクトが実行されると、Sybase ETL サーバはエラー・メッセージなしで予期せず終了します。

対処方法：次の手順に従います。

- SQL Anywhere 11 または Sybase IQ 15 ODBC ドライバをインストールします。
- ODBC を LD_LIBRARY_PATH 環境変数に追加します。
- libodbc.so を ASA11/IQ15 インストール・ディレクトリの libdbodbc11.so にリンクします。
- ETL サーバを再起動します。

5.2.4 データベース値が指定されている場合、プロジェクトが実行できない

[CR #556364] DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネント、IQ Loader File via Load Tables コンポーネント、および IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの [Use IQ Multiplex] オプションを有効にした場合、IQ マルチプレックス環境のライタを選択し、[Database] プロパティ・フィールドでデータベースを指定すると、プロジェクト実行時にエラーが表示される可能性があります。

対処方法：[Use IQ Multiplex] オプションを選択する際、[Database] プロパティ・フィールドでデータベースを指定しないでください。

5.2.5 Sybase IQ DB Bulk Load コンポーネントを使用すると、マルチバイト文字のファイル名をロードできない

[CR #549397] Sybase IQ DB Bulk Load コンポーネントは、名前のマルチバイト文字を使用して ETL によって生成されたファイルからデータのロードに失敗します。次のエラー・メッセージが表示されます。

```
Could not execute statement. Right truncation of string data.
```

対処方法：ターゲット・データベースが Sybase IQ 15.0 の場合、マルチバイト文字を Sybase IQ DB Bulk Load コンポーネントの Load Stage ファイル名として使用しないでください。

5.2.6 Sybase IQ にアクセスする際にパフォーマンスが低下する

[CR #447948] Sybase IQ にアクセスする際に、DB Staging、DB Data Sink Insert、DB Data Sink Update、DB Data Sink Delete などのコンポーネントを使用すると、パフォーマンスが低下します。

対処方法：パフォーマンスを向上するには、次のいずれかの操作を行います。

- IQ Loader File via Load Table ロード・コンポーネントと IQ Loader DB via Insert Location ロード・コンポーネントを使用して、Sybase IQ へのロードを高速化します。
- プロジェクトのステージング部分に対して、Sybase IQ ではなく、Adaptive Server Enterprise、Adaptive Server Anywhere、または Microsoft Access を使用します。
- ステージングで Sybase IQ を使用する場合は、プロジェクトを新しいステージング・プロジェクトとローディング・プロジェクトに分割します。新しいステージング・プロジェクトで DB Staging ではなく DB Bulk Load Sybase IQ を使用し、新しいローディング・プロジェクトで IQ Loader File via Load Table と IQ Loader DB via Insert Location を使用して、Sybase IQ へのロードを高速化します。
- Sybase IQ から抽出されたバイナリ・データのロードのために IQ Loader File via Load Table コンポーネントを使用します。Sybase IQ テーブルからバイナリの抽出を実行するには、isql ユーティリティを使用して、カスタム・スクリプトを作成する必要があります。

- Source IQ システムでのデータの抽出

```
set TEMPORARY OPTION
Temp_Extract_Name1='C:\myfolder\mybinfile.bin';
set TEMPORARY OPTION Temp_Extract_Binary='ON';
SELECT * FROM mytable
```

- [Text Source] プロパティ・ウィンドウにダミー・ファイル名を設定することにより、IQ Loader File via Load Table コンポーネントにカスタム・ロード・スクリプトを作成します。

```
LOAD TABLE mytable
{
[myCol1] BINARY WITH NULL BYTE,
[myCol2] BINARY WITH NULL BYTE,
[myCol3] BINARY WITH NULL BYTE
)
FROM '<path&filename on destination system>'
QUOTES OFF
ESCAPES OFF
FORMAT binary
```

詳細は、『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第7章 データベースへのデータの入出力」を参照してください。

5.2.7 XML として出力されたプロジェクト・レポートが Windows Vista で開くことができない

[CR #546658] Windows Vista Business 32 ビット版では、XML 出力を使用して生成されたプロジェクト・レポートが表示されると、Sybase ETL がエラーを生成します。

対処方法：インストール・ディレクトリの [reports] フォルダに移動し、XML ファイルを手動で開きます。

5.2.8 テーブル名とカラム名をデータベース・キーワードにできない

[CR #496346] Sybase ETL 4.8 では、テーブル名またはカラム名として “variable” などのデータベース・キーワードを使用することはできません。

対処方法：なし

5.2.9 uSetLocale JavaScript 関数は、Windows プラットフォームのみで動作する

[CR #531483] uSetLocale JavaScript 関数は、Windows プラットフォームのみで動作します。UNIX プラットフォームでは、uSetLocale をどの言語に設定しても、uMonthName、uMonthNameShort、uWeekdayName、および uWeekdayNameShort の出力が英語で表示されます。

対処方法：なし

5.2.10 DB Staging データベースとして SQL Anywhere を使用するとエラーが表示される

[CR #546257] DB Staging コンポーネントでは、Sybase コネクティビティのある SQL Anywhere データベースを使用し、OCS 15.0 ESD #7 以降のバージョンを使用している場合、このエラーが発生する可能性があります。

```
"The connection has been marked dead."
```

注意 Sybase IQ をステージング・データベースとして使用している間に同じようなエラーが発生した場合、同じ対処方法をとります。

対処方法：

- ODBC コネクティビティを持つ SQL Anywhere または Adaptive Server Enterprise を使用します。
- Sybase インタフェースを使用している場合、ETL 4.8 に同梱されている OCS バージョンを使用します。
 - Windows – 15.0 ESD #6
 - UNIX および Linux – 15.0 ESD #15

5.2.11 Windows Vista での名前付きパイプの使用に関する問題

[CR #549539] Windows Vista では、DB Bulk Load IQ コンポーネントの Load Stage プロパティのパイプ名を指定できません。

対処方法：Vista マシンのファイアウォール設定を変更します。

- 1 [スタート]に移動し、[コントロールパネル]-[セキュリティセンター]-[Windows ファイアウォール]の順に選択します。
- 2 [例外]タブをクリックします。
- 3 [プログラムおよびサービス]で[ファイルとプリンタの共有]チェックボックスをオンにして、[OK]をクリックします。

5.2.12 Insert Location コンポーネントが暗号化パスワードをサポートしない

[CR #536482] 送信元データベースが Sybase IQ 12.7 または Sybase IQ 15.0 である場合、Sybase ETL 4.8 では、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの接続情報で [Encrypted Password] オプションがサポートされません。

対処方法：なし

5.2.13 Character Mapper ウィンドウに間違っただけの結果が表示される

[CR #549271] シミュレーション時に Query Designer から取得されて、Character Mapper の [Input] ペインおよび [Output Port Content] ペインで表示されるレコードのデフォルト数は 25 です。この値は、Preference ウィンドウの [Default number of records to retrieve from the Query Designer] フィールドに設定されます。

レコードのデフォルト数を変更されない場合、入力ポートが 25 以上のレコードを配信しても（たとえば、データ・ソースが 25 以上の Read Block Size 値を指定する場合）、[Input] ペインおよび [Output Port Content] ペインには、最初の 25 のレコードのみが表示されます。[Input] ペインおよび [Output Port Content] ペインにレコードが表示されなくても、現在のレコード数が 25 である場合、ツールバーの [Go to last record] アイコンをクリック、または現在のレコード数が 26 以上の場合、[Go to previous record] アイコンをクリックして、[Current Input Record] ペインに正しいレコードを表示します。

対処方法：

- [Current Input Record] ペインで現在選択されているレコードの詳細を表示する
- Read Block Size 値を 25 またはそれ以下に指定する
- Character Mapper の入力ポートで予想されるレコード数に等しい値を [Default number of records to retrieve from the Query Designer] フィールドに設定する

5.2.14 パフォーマンス・データを表示中にエラーが発生する

[CR #551633] Sybase ETL 4.5 から Sybase ETL 4.8 にマイグレートした場合、Preference ウィンドウでパフォーマンス・ロギング・レベルを 1 に設定しても、プロジェクトのパフォーマンス・データを表示できない可能性があります。

対処方法：パフォーマンス・データを表示するには、[Tools] - [Reset Performance Data Queries] の順にクリックします。

5.2.15 ネットワーク・パケット・サイズの設定が正しくない場合に Insert Location プロジェクトが失敗する

[CR #536684] コンポーネントのネットワーク・パケット・サイズが Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズ以上である場合、ソースとして Adaptive Server を使用し、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを含むプロジェクトが失敗します。

対処方法：プロジェクトを実行する前に、次の操作を行います。

- 1 Adaptive Server に接続し、`sp_configure`、`'max network packet size'`、を実行して、Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value (実行値) を表示します。
- 2 ETL で、手順 1 で取得した Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value (実行値) 以下である、IQ Loader DB via Insert Location のパケット・サイズを入力します。

たとえば、ETL で、Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value が 2048 バイトである場合、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの ETL パケット・サイズは、Adaptive Server Run Value の $4 \times 512 = 2048$ バイトなので、4 以下にする必要があります。

5.2.16 ソース・テーブルのカラム長からトランケートされた余分な文字

[CR #493550] ソース・テーブルのカラム長がターゲット・テーブルのカラム長より長い場合、ETL は警告なしで余分な文字をトランケートします。

対処方法：データを転送する際、ターゲット・テーブルのカラム長がソース・テーブルのカラム長と等しいまたはそれ以上であることを確認します。

5.2.17 カラム数が大きいテーブルをマイグレートする際、エラー・メッセージが表示される

[CR #549882] マイグレーション・ウィザードを使用して、ワイド・テーブルをマイグレートする場合、マイグレーション処理の終わりにこのエラー・メッセージが表示されることがあります。

```
An error occurred during execution of the engine.  
Commit Failed: Client Library Message: severity(0)  
layer(1) origin(1) number(50) Text: ct_cmd_drop():user  
api layer: external error: The connection has been  
marked dead.
```

```
Cannot execute the last command.
```

```
Please refer to the Message section.
```

```
The migration failed due to the previous error. Unable  
to open the generated job.
```


エラー・メッセージにかかわらず、テーブルは正常にターゲット・データベースにマイグレートされ、生成されたジョブを手動で開いてデータを転送できます。

対処方法： Sybase インタフェースを使用してソース・データベースに接続している場合や使用している OCS バージョンが 15.0 ESD #13 以降の場合、このエラーが表示されます。このエラーを回避するには、次のようにします。

- ODBC インタフェースを使用してソース・データベースに接続します。
- Sybase インタフェースを使用して、ソース・データベースに接続している場合、OCS バージョン 15.0 ESD#7 を使用します。

5.2.18 FTP ソースで [Skip First Rows] が 0 である場合、Text Data Provider が失敗する

[CR #540626] コンポーネントのテキスト・ソースとして FTP URL を入力するときに、[Skip First Rows] フィールドでデフォルト値 0 のままにすると、[Text Data Provider] コンポーネントはデータを転送しません。

対処方法： [Skip First Rows] フィールドに 1 を入力して設定を保存し、[Skip First Rows] の値を 0 に変更して設定をもう一度保存します。

5.2.19 テーブルに多数のカラムが含まれる場合に、ETL の応答が停止する場合がある

[CR #541647] 数千ものカラムが含まれるテーブルを持つプロジェクトを実行すると、ETL サーバの応答が断続的に停止する場合があります。プロジェクトを保存しようとする、ETL Development の応答も断続的に停止する場合があります。

対処方法： なし

5.2.20 LOB がファイル・モードで正常に作動しない

[CR #543229] LOB (大きいオブジェクト) データをファイル・モードで Sybase IQ データベースに転送すると、抽出中にファイルの元の内容が変換されます。

対処方法： IQ Loader File via Load Table コンポーネントまたは IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを使用して、Sybase IQ へ LOB データを転送します。

詳細は、『Sybase IQ 12.7 リファレンス・マニュアル』および『Sybase IQ 15.0 リファレンス・マニュアル』の「SQLの使用」の章の「LOAD TABLE 文」および「INSERT 文」を参照してください。

5.3 国際化の問題

この項では、マルチバイトの西欧言語以外の文字を使用した場合の既知の問題について説明します。

5.3.1 locale.dat ファイルが設定されていない場合、プロジェクトの実行が失敗する

[CR #563610] Unix および Linux では、\$ETLinstall/ocs/locale/locales.dat ファイルのプラットフォームに言語を表す値を設定せずにプロジェクトを実行すると、プロジェクトの実行が失敗する可能性があります。

対処方法: locales.dat ファイルに適切な言語設定を追加します。たとえば、Solaris マシンを使用し、ロケールが ja_JP.utf8 である場合、locales.dat ファイルを開き、[sun_svr4] セクションを検索して、次を設定します。

```
locale = ja_JP.utf8, japanese, utf8
```

5.3.2 IPv6-only 環境は Microsoft Vista で作動しない

[CR #552407] デフォルトでは、Microsoft Vista は IPv6 をサポートします。ただし、IPv6-only ネットワーク環境で Vista を使用している場合、このエラーが表示されます。

```
ERROR : Cannot create socket. An address incompatible  
with the requested protocol was used.
```

これは主に JDK および Windows Vista 間に互換性がないためです。ただし、IPv4 および IPv6 の混合 (デュアルスタック) 環境で作業している場合、同じエラーは発生しません。

対処方法: なし

5.3.3 Insert Location コンポーネントで Microsoft SQL Server および IBM DB2 から Unicode データをロードできない

[CR #530253] IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでは、Sybase Enterprise Connect Data Access (ECDA) を使用して、Microsoft SQL Server および IBM DB2 から Sybase IQ に西欧言語以外のマルチバイト文字データをロードできません。

対処方法: なし

5.3.4 Insert Location コンポーネントで SQL から Unicode データをロードできない Anywhere 10

[CR #531902] IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントは、nvarchar データ型を使用して、SQL Anywhere 10 から西欧言語以外のデータおよびマルチバイト文字データをロードすることはできません。

対処方法：なし

5.3.5 バイト順マークのあるソース・ファイルが間違っ て解析される

[CR #543716] Fixed by Bytes プロパティを使用してファイルを解析する場合、ソース・ファイルにはバイト順マークが含まれません。含まれる場合、ファイルは間違っ て解析されます。

対処方法：テキスト・エディタを使用して、解析前にソース・ファイルからバイト順マークを削除します。

5.3.6 パスワード・フィールドにマルチバイト文字を入力できない

[CR #530806] 一部の ETL パスワード・フィールド (たとえば、コンポーネントの [Database Configuration] ウィンドウ) に西欧言語以外またはマルチバイト文字で直接入力できません。パスワード・フィールドに直接入力できるのは、ASCII 文字のみです。

対処方法：西欧言語以外またはマルチバイト文字は、パスワード・フィールドに直接ペーストすることができます。

5.3.7 Oracle 10g から日本語の文字が正しく変換されない

[CR #539726] 日本語の文字 ~は、UTF-16LE: 0x5EFF としても知られており、Windows XP の ETL Development で、Oracle 10g または 11g ネイティブ・インタフェースか、Oracle 10g または 11g ODBC インタフェースを使用すると、送信元 Oracle 10g データベースから正しく変換されません。

対処方法：ETL Development で、Windows XP に付属の Oracle の Microsoft ODBC ドライバを使用して、Windows XP で実行されている ETL Development マシンのレジストリで、ロケールの NLS_LANG 環境変数を “AMERICAN_AMERICA.JA16SJIS” に設定します。

5.3.8 UNIX プラットフォームでの中国語ファイルまたはフォルダ名へのアクセスに関する問題

[CR #549891] ほとんどの UNIX プラットフォームでは、LANG 環境変数が、zh_CN.GBK または zh_CN.gbk に設定され、ファイルまたはフォルダ名の簡体字中国語文字をサポートしています。ただし、一部の UNIX プラットフォームでは、LANG 環境変数を使用中のマシンでサポートされているロケールに設定しない限り、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：使用可能なロケールのリストを表示し、LANG 環境変数として適切なロケールを設定するには、`locale -a` コマンドを実行します。たとえば、`locale -a | grep zh` コマンドを実行すると、次のサポートされたロケールが表示されます。

- zh.GBK
- zh.UTF-8
- zh_CN.EUC
- zh_CN.GBK

環境変数 LANG を zh.GBK または zh_CN.GBK に設定し、簡体字中国語をサポートできます。

ロケールのリストが表示できない場合、使用中のマシンに必要な言語パッケージをインストールします。

5.4 Sybase IQ 12.7 を持つ ETL の使用に関する問題

このセクションでは、Sybase IQ 12.7 のみを持つ ETL を使用する際の既知の問題について説明します。

5.4.1 IQ データベース・オプションの推奨される設定

[CR #447096, CR #447097] IQ データベース・オプション `FORCE_NO_SCROLL_CURSORS` はデフォルト設定 (OFF) にしてください。それ以外の設定では、ETL を介してデータを移動するときにフェッチ・エラーが発生する場合があります。

データベース・オプションの設定を調整するには、`dbisql` で `SET OPTION` コマンドを使用するか、Sybase Central でデータベースを右クリックし、サブメニューから [Set Options] を選択します。

5.4.2 Sybase ETL インストール・パスの特殊文字

[CR #454526] Sybase ETL Development または ETL サーバのインストール・パスに特殊文字があると、データベースのアクセス時に問題が発生する場合があります。

たとえば、C:\Program Files (x86)\Sybase: のようにカッコが含まれているパスに Sybase ETL サーバがインストールされている場合、Oracle データベース・クライアントに接続すると次のエラーが返されます。

```
ORA-12154: TNS:could not resolve the connect
        identifier specified
```

対処方法：英数字のみを使用したインストール・パスを選択することをおすすめします。この問題を回避するには、インストール時に Windows 2003 EE 64 ビット・オペレーティング・システムによって追加される (x86) をデフォルトのインストール・ディレクトリから削除します。

5.5 ETL 製品以外の問題

この項では、サード・パーティの製品とコンポーネントの既知の問題について説明します。

5.5.1 ODBC ドライバを使用してマルチバイト・データを取得または挿入すると、無効な文字が表示される

[CR #550309, #550305] Windows および Solaris では、SQL Anywhere 10 ODBC ドライバを使用してプロジェクトを実行し、UTF8 でエンコードされた Sybase IQ 15.0 データベースからマルチバイト・データを取得、あるいはデータベースヘデータを挿入すると、マルチバイト・データは送信先データベースから無効な文字として取得されます。

対処方法：Windows の場合：

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロール パネル]-[管理ツール]-[データ ソース (ODBC)] を選択します。
- 2 ユーザ・データ・ソースまたはシステム・データ・ソースのリストから SQL Anywhere 10 DSN の名前を選択します。
- 3 [構成] をクリックします。
- 4 [詳細設定] タブをクリックします。

- 5 UTF8 を [Character Set] フィールドに入力します。
- 6 ODBC Data Source Administrator ウィンドウを終了するまで、[OK] をクリックします。

Solaris の場合：

ODBC 設定ファイルに “Charset=utf8” を追加します。

5.5.2 OLE DB アダプタは、Sybase IQ 15.0 をサポートしない

[CR #548986] 現在の OLE DB アダプタは、Sybase IQ 12.7 ESD #3 および SQL Anywhere 9 のみをサポートします。

対処方法：OLE DB インタフェースの代わりに Sybase または ODBC を使用します。

5.5.3 Linux pSeries のインタフェース・ドライバの制限

[CR #544368] Sybase ETL 4.8 では、Linux pSeries でサポートされるインタフェース・ドライバは、Sybase ネイティブ (クライアント・ライブラリ経由) インタフェースのみです。Sybase ETL 4.8 でサポートされるインタフェース・ドライバのバージョンのリストについては、『Sybase ETL 4.8 インストール・ガイド』の「システム稼働条件の確認」を参照してください。

5.5.4 SQL Anywhere 11 を日本語または中国語で Windows にインストールすると、エラーが表示される

[CR #561733] SQL Anywhere 11 を日本語または中国語の Windows オペレーティング・システムにインストールすると、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：エラー・メッセージを無視します。

5.5.5 Windows 64 ビットに SQL Anywhere 10 をインストールすると、警告が表示される

[CR #549525] SQL Anywhere 10 が Windows 64 ビットのマシンに正常にインストールされた後、警告メッセージが表示される可能性があります。

対処方法：警告を無視します。

5.5.6 ODBC を使用して SQL Anywhere 10 または 11 のデータベースへのリポジトリ接続を作成すると失敗する

[CR #548368] ODBC コネクティビティを使用して、SQL Anywhere 10 または SQL Anywhere 11 データベースにリポジトリ接続を作成している間に、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：リポジトリ接続を正常に作成するには、Add Repository Connection ウィンドウの [Schema] フィールドにスキーマ名を手動で入力します。

5.5.7 IQ データベース・オプションの推奨される設定

[CR #447097] IQ データベース・オプション FORCE_NO_SCROLL_CURSORS はデフォルト設定 (OFF) にしてください。それ以外の設定では、ETL を使用してデータを移動するときにフェッチ・エラーが発生する場合があります。

対処方法：データベースのオプションの設定を調整するには、dbisql で SET OPTION コマンドを使用するか、Sybase Central でデータベースを右クリックし、サブメニューから [Set Options] を選択します。

5.5.8 クエリで ETL キーワードを使用しない

[CR #475056] クエリ文字列で ETL キーワードを使用した場合、ETL プロジェクトが実行されません。

対処方法：『Sybase ETL 4.8 ユーザーズ・ガイド』の「付録 A 関数リファレンス」にある “execute”、“simulate” などの ETL キーワードをクエリ文字列で使用しないでください。

5.5.9 ETL 4.2 で作成された SQL Anywhere リポジトリに接続できない

[CR #480747] ETL 4.8 にマイグレートする際、ODBC コネクティビティを使用して SQL Anywhere リポジトリを ETL 4.2 に作成する場合、Sybase インタフェースを使用して開いている間にエラーが発生する可能性があります。

対処方法：ODBC コネクティビティを使用して、ETL 4.2 SQL Anywhere リポジトリに接続します。

5.5.10 大容量のデータを転送すると、過度のメモリが消費される

[CR #545145] Adaptive Server Enterprise からの大容量のデータ・ローをテキストに転送する際、メモリの消費が増大して、プロジェクトが正常に実行されるまでメモリが解放されません。

対処方法：Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.11 クエリが大容量の結果セットを取得する必要がある場合、ETL によって応答が停止される

[CR #540683] 多数のローを含んでいるテーブルからレコードを取得するためにクエリを実行している場合、DB Data Provider Full Load コンポーネントを再初期化すると、ETL Development によって応答が断続的に停止される可能性があります。過度のメモリが消費されるため、Sybase ETL サーバの仮想メモリが不足する可能性があります。

対処方法：Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.12 Adaptive Server ODBC データ・ソースに [Use Cursors] を指定する

[CR #500832] ETL では、ODBC インタフェースを使用して Adaptive Server Enterprise から binary、varbinary、または time 値を表示できません。

対処方法：Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.13 ODBC ドライバ 15.0.105 を使用した場合に、データベースが表示されない

[CR #531861] Adaptive Server ODBC ドライバ・バージョン 15.0.105 以前を使用した場合、ETL では、データベース・インタフェースに ODBC を選択しても、プロパティ・ウィンドウの [Host Name] フィールドにデータベースが表示されません。

対処方法：Sybase Adaptive Server ODBC ドライバ・バージョン 15.0.305 以降にアップグレードします。

5.5.14 IBM AIX 上の DB2 に書き込まれる日付フォーマットが正しくない

[CR #538539] DB Data Provider Index Load および Text Data Sink コンポーネントを使用した場合、IBM AIX 上の DB2 への出力日付フォーマットが正しくありません。

対処方法：この場合は、次の 2 つの対処方法があります。

- 1 [Read Block Size] を 1 に設定します。[Read Block Size] を減らすと、パフォーマンスが低下することに注意してください。
- 2 CHAR 関数を使用して、date または time 型のカラムに変換するクエリを char データ型に変更します。たとえば、col_1 が date 型カラムで、col_2 が time 型カラムで、col_3 が timestamp (この型は問題を示していない) である場合、次の SQL 文によって問題が修正されます。この文では、ユーザが [Read Block Size] を変更する必要がなく、多数のブロック処理に関連したパフォーマンスの低下を避けることができます。

```
select CHAR(col_1), CHAR(col_2), col_3 from DATE_TIME_TBL
```

Text Data Sink コンポーネントの出力は、次のようになります。

```
COL_1,COL_2,COL_3
```

```
1963-12-08,12.00.00,1991-03-02 08:30:00.000
```

```
1967-04-10,12.01.01,1991-04-02 08:30:00.000
```

CHAR 関数を使用しない場合、Text Data Sink 出力は、次のようになります。

```
COL_1,COL_2,COL_3
```

```
1963-12-08,12:00:00,1991-03-02 08:30:00.000
```

```
0004-10-00,01:01:00,1991-04-02 08:30:00.000
```

DB2 テーブル (DATE4_TBL テーブルなど) に書き込まれたデータを表示するには、次のように入力します。

```
select * from DATE4_TBL
```

DB2 の DATE4_TBL のコンテンツは、次のようになります。

```
COL_1      COL_2      COL_3
```

12/08/1963 12:00:00 1991-03-02-08.30.00.000000

04/10/1967 12:01:01 1991-04-02-08.30.00.000000

5.5.15 Windows プラットフォーム上のプロジェクトが失敗してパイプ・エラー・メッセージが表示される

[CR #539346] ETL サーバと Sybase IQ サーバが別々の Windows プラットフォームに存在する場合、プロジェクトが失敗し、「パイプが存在しないこと」、または「パイプ・パーミッション」を示すエラーが表示されます。

対処方法：

- 1 Sybase IQ および ETL サーバのホストが相互に共有ディレクトリにアクセスできることを確認します。
 - a マルチユーザのオペレーティング・システムである Windows 2003 で Sybase IQ が実行されている場合、ターゲット Sybase IQ サーバが起動したセッションにログインしていることを確認します。
 - b Sybase IQ ホストから ETL サーバのホストにアクセスしようとすると、ターゲット Sybase IQ サーバが表示されることを確認します。
- 2 対処方法 1 を実行した後でも、パイプ・エラーが解決されない場合は、IQ Bulk Load Sybase IQ コンポーネントの [Load Stage] オプションにパイプ名ではなくデータ・ファイルを指定して、コンポーネントが含まれるプロジェクトを実行します。『Sybase ETL 4.8 ユーザーズ・ガイド』の「第 5 章 コンポーネント」の「DB Bulk Load Sybase IQ」を参照してください。

6. マニュアル情報と変更点

この項には、製品マニュアル、オンライン・ヘルプ、およびデモに対する更新情報と補足説明が含まれています。

6.1 ETL Development、製品マニュアル、およびデモの表示

ETL Development GUI および ETL 製品のマニュアルを正しく表示および使用できることを確認し、製品にインストールされている ETL Flash デモを実行するには、次の操作を行います。

- 画面の解像度が 800x600 ピクセルに設定されている場合、Content Explorer のダイアログは大きすぎて表示できないため、画面の解像度を 1024x768 ピクセルに設定します。
- Windows Vista で ETL Flash デモを実行するには、Adobe Web サイト (<http://www.adobe.com>) から Adobe Flash Player の最新バージョンをインストールします。
- [Help] - [What's New in ETL Development] から『新機能ガイド』にアクセスするには、Adobe Web サイト (<http://www.adobe.com>) から Adobe Reader 最新バージョンをインストールします。

6.2 ユーザーズ・ガイド

この項には、『Sybase ETL 4.8 ユーザーズ・ガイド』に対する更新情報と補足説明が含まれています。

6.2.1 IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでの Sybase インタフェースのサポート

[CR #562846] 次の情報は、第 5 章の「IQ Loader DB via Insert Location」セクションに追加されていません。「Sybase が IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでサポートされている唯一のインタフェースです」。

6.2.2 デモ・リポジトリ名

第 2 章の「トラブルシューティング」セクションに提供されたデモ・データベースの名前が間違っています。デモ・データベースの正しい名前は、ETLDEMO_REP.MDB です。

6.2.3 Info port を XML via SQL Data Provider コンポーネントに追加できない

[CR #556522] 「第 5 章 コンポーネント」の「XML Port Manager での作業」セクションの Info port についての情報が間違っています。Sybase ETL 4.8 では、XML ドキュメントを次のコンポーネントに転送するために [Info Port] を追加できません。このリリースでは、[Info Port] メニュー・オプションはこのコンポーネントで使用できません。

7. テクニカル・サポート

サポート契約を購入済みの Sybase 製品のインストールには、定められた 1 人以上のユーザに対して、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタを利用する権利が付属します。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合は、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

8. その他の情報ソース

Sybase Getting Started CD、SyBooks CD、Sybase Product Manuals Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、PDF 形式のリリース・ノートとインストール・ガイド、および SyBooks CD に含まれていないその他のマニュアルや更新情報が収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- SyBooks CD には製品マニュアルが収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Eclipse ベースの SyBooks ブラウザでは、使いやすい HTML 形式のマニュアルにアクセスできます。

一部のマニュアルは PDF 形式で提供されています。それらのマニュアルは SyBooks CD の PDF ディレクトリに収録されています。PDF ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。

SyBooks をインストールして起動するまでの手順については、Getting Started CD の『SyBooks インストール・ガイド』、または SyBooks CD の README.txt ファイルを参照してください。

- Sybase Product Manuals Web サイトは、SyBooks CD のオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使ってアクセスできます。また、製品マニュアルのほか、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Sybase Product Manuals Web サイトは、Product Manuals (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にあります。

8.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ 製品動作確認の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [Certification Report] をクリックします。
- 3 [Certification Report] フィルタで製品、プラットフォーム、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
- 4 [Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ コンポーネント動作確認の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Availability and Certification Reports (<http://certification.sybase.com/>) を指定します。
- 2 [Search By Base Product] で製品ファミリとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
- 3 [Search] をクリックして、入手状況と動作確認レポートを表示します。

❖ Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

8.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Sybase Support Page (<http://www.sybase.com/support>) を指定します。
- 2 [EBFs/Maintenance] を選択します。ユーザ名とパスワードの入力が求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 製品を選択します。
- 4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースのリストが表示されます。

鍵のアイコンは、自分が Technical Support Contact として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

- 5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。